

2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月13日

上場会社名 リズム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7769 URL <https://www.rhythm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 湯本 武夫
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 相澤 竜也 (TEL) 048-643-7241
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	25,386	8.3	656	18.0	958	6.5	549	539.0
2024年3月期第3四半期	23,440	△2.9	556	△23.0	899	△11.1	86	△89.1

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 1,194百万円(14.0%) 2024年3月期第3四半期 1,048百万円(△48.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	66.58	—
2024年3月期第3四半期	10.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	46,563	31,936	68.6
2024年3月期	43,573	31,145	71.5

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 31,936百万円 2024年3月期 31,145百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	48.50	48.50
2025年3月期	—	0.00	—		
2025年3月期(予想)				73.00	73.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	1.2	1,200	64.3	1,600	27.1	1,000	109.3	121.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 — 社(社名) — 、除外 2社(社名) アイ・ネクストジーイー株式会社・RHYTHM
KYOSHIN HANOI CO., LTD.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	8,385,093株	2024年3月期	8,385,093株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	131,038株	2024年3月期	129,913株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	8,254,676株	2024年3月期3Q	8,256,556株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有(任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来予測情報の適切な利用に関する説明)

本資料に記載されている業績予想見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(重要な後発事象)	11
(独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間の末日現在において判断したものです。

なお、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っています。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメントの利益又は損失の算定方法により組み替えた数値で比較分析しています。

(経営成績の概況)

当第3四半期連結累計期間(2024年4月1日から2024年12月31日)における国内経済は、雇用・所得環境の改善等により回復基調である一方で為替の変動や物価上昇の影響等が継続し、また、世界経済はアメリカの今後の政策動向、中国での内需低迷や不動産不況、世界的な原材料や資源価格の高止まり、ウクライナや中東情勢の混乱等の地政学リスクの高まり等、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループの業績は、精密部品事業における車載関連売上は事業環境悪化により停滞したものの前年買収のリズム翔栄株式会社の通期寄与から増収を確保し、空調関連の好調な推移や生活用品事業における快適品売上の増加もあり、全体でも前年同期を上回る売上となりました。

利益面につきましては、原材料の価格高騰、円安による仕入価格の上昇が業績に影響を与えたものの、売上増加や販管費の抑制により、営業利益、経常利益は増益となりました。

また、前年同期はソフトウェア資産や中国子会社での減損損失を計上しましたが、当期は米国子会社の清算決定に伴う事業整理損や減損損失を計上したもののリース解約益等の計上もあり、特別損益は大幅に改善し、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、増益となりました。

以上のことから、当第3四半期連結累計期間の売上は253億86百万円(前期比8.3%増)、営業利益は6億56百万円(前期比18.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億49百万円(前期比539.0%増)となりました。

(単位:百万円)

		2024年3月期 第3四半期 連結累計期間	2025年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	精密部品事業	18,114	19,316	1,202	6.6%
	生活用品事業	5,020	5,770	750	14.9%
	その他	305	299	△6	△2.1%
	計	23,440	25,386	1,946	8.3%
営業利益又は営業損失(△)	精密部品事業	1,394	1,647	253	18.2%
	生活用品事業	△534	△658	△123	—
	その他	57	43	△13	△24.3%
	調整額	△360	△376	△15	—
	計	556	656	100	18.0%
経常利益	899	958	58	6.5%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	86	549	463	539.0%	

これらをセグメント別に見てみますと次のとおりです。

①精密部品事業

国内では、車載、空調向けが好調を維持し全体を牽引しており、一部特需の恩恵を受け、売上・利益に貢献しました。精密金型では光学向けの受注が好調に推移しました。工作機械向けは、低迷期からは脱したものの、受注状況としては依然不安定であり、完全回復には暫くかかる見込みです。欧州、中国向けのEV関連は依然として低迷していますが、リズム翔栄株式会社の通期寄与もあり増収となり、利益面では円安の影響により減益となりました。

海外では、ベトナムで展開している組立事業の受注回復の遅れ、中国での日系自動車販売不振による受注停滞が継続しておりますが、ベトナム、インドネシアで車載関連の受注が安定しており、欧州自動車向けの過剰在庫解消もあり、増収増益となりました。

これらの結果、精密部品事業全体では増収増益となりました。

②生活用品事業

国内では、クロックにおいては主力製品の販売は伸びましたが、全体としては微減となり、一方で新たな事業として注力している快適品については、今期前半に販売したハンディファン、サーキュレーターの売上が全体を牽引、事業全体は増収となりました。一方、利益面につきましては、円安の影響を強く受け減益、営業損失となりました。

海外では、販売拠点におけるクロック販売は低調に推移しましたが、快適品の販売増加に加え円安効果もあり、増収となりました。利益面では、快適品の生産量増大等により中国生産拠点の採算改善が進みましたが、米国拠点の閉鎖に伴う影響もあり、海外全体の利益改善はわずかなものとどまり、損失計上となりました。

これらの結果、生活用品事業全体では増収、営業損失の悪化となりました。

③その他

その他事業では、物販事業を営む子会社のギフト販売の低迷、物流事業子会社の採算低下から、全体では減収減益となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

総資産は465億63百万円となり、前連結会計年度末435億73百万円に比べて29億89百万円増加しました。流動資産は、現金及び預金や有価証券の増加等により、前連結会計年度末に比べ23億99百万円増加しました。固定資産は、生産設備投資やシステム関連投資等により、前連結会計年度末に比べ5億90百万円増加しました。

(負債)

負債合計は146億27百万円となり、前連結会計年度末124億27百万円に比べ21億99百万円増加しました。流動負債は、支払手形及び買掛金等の減少により前連結会計年度末に比べ1億71百万円減少しました。固定負債は、社債や長期借入金の増加等により、前連結会計年度末に比べ23億71百万円増加しました。

(純資産)

純資産合計は、319億36百万円となりました。為替換算調整勘定の増加等により前連結会計年度末311億45百万円に比べ7億90百万円増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年11月14日に公表しました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,043	13,227
受取手形及び売掛金	5,511	5,146
電子記録債権	1,859	1,779
有価証券	-	300
棚卸資産	7,980	7,958
その他	684	1,065
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	27,076	29,476
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,794	5,526
その他（純額）	5,298	5,740
有形固定資産合計	11,092	11,266
無形固定資産		
その他	205	454
無形固定資産合計	205	454
投資その他の資産		
投資有価証券	3,405	3,577
繰延税金資産	57	56
その他	1,804	1,794
貸倒引当金	△67	△63
投資その他の資産合計	5,199	5,365
固定資産合計	16,496	17,087
資産合計	43,573	46,563
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,400	2,906
1年内返済予定の長期借入金	1,105	1,372
未払法人税等	217	122
賞与引当金	345	266
役員賞与引当金	10	-
その他の引当金	9	17
その他	1,835	2,066
流動負債合計	6,924	6,752
固定負債		
社債	2,500	4,000
長期借入金	1,955	2,667
退職給付に係る負債	288	316
その他	760	890
固定負債合計	5,503	7,874
負債合計	12,427	14,627

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,372	12,372
資本剰余金	7,540	7,540
利益剰余金	4,662	4,811
自己株式	△283	△287
株主資本合計	24,292	24,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,489	1,627
為替換算調整勘定	5,034	5,573
退職給付に係る調整累計額	329	297
その他の包括利益累計額合計	6,853	7,498
純資産合計	31,145	31,936
負債純資産合計	43,573	46,563

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
売上高	23,440	25,386
売上原価	18,553	20,367
売上総利益	4,887	5,019
販売費及び一般管理費	4,330	4,362
営業利益	556	656
営業外収益		
受取利息	10	32
受取配当金	117	133
受取賃貸料	258	245
為替差益	103	58
その他	47	70
営業外収益合計	536	539
営業外費用		
支払利息	18	40
賃貸費用	98	115
特別退職金	36	-
その他	39	81
営業外費用合計	194	237
経常利益	899	958
特別利益		
固定資産売却益	10	27
投資有価証券売却益	-	18
負ののれん発生益	299	-
リース解約益	-	97
特別利益合計	309	143
特別損失		
事業整理損	-	64
固定資産処分損	0	0
減損損失	728	82
特別損失合計	728	146
税金等調整前四半期純利益	480	955
法人税、住民税及び事業税	279	280
法人税等調整額	114	125
法人税等合計	394	405
四半期純利益	86	549
親会社株主に帰属する四半期純利益	86	549

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	86	549
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	261	138
為替換算調整勘定	776	538
退職給付に係る調整額	△75	△32
その他の包括利益合計	962	645
四半期包括利益	1,048	1,194
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,048	1,194

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	精密部品事業	生活用品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,114	5,020	23,134	305	23,440
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	7	15	499	515
計	18,122	5,027	23,150	804	23,955
セグメント利益又は 損失(△)	1,394	△534	859	57	917

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	859
「その他」の区分の利益	57
セグメント間取引消去	26
全社費用(注)	△387
四半期連結損益計算書の営業利益	556

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「生活用品事業」において、当社の生活用品事業につきまして、事業環境の悪化に伴い収益性が低下し、当面業績回復が見込まれないことから、金型等の資産につきまして、当第3四半期連結累計期間において1億26百万円の減損損失を計上しております。

また、当社の連結子会社であるRHYTHM INDUSTRIAL(DONG GUAN)LTD.の生活用品事業につきまして、事業環境の悪化に伴い収益性が低下し、当面業績回復が見込まれないことから、リース資産(工場の賃借契約)につきまして、当第3四半期連結累計期間において、3億16百万円の減損損失を計上しております。

報告セグメントに帰属しない全社資産において、システム開発計画の変更によって今後の利用が見込めなくなったソフトウェア資産(建設仮勘定)につきまして、当第3四半期連結累計期間において、2億85百万円の減損損失を計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

「精密部品事業」において、当社100%出資子会社としてリズム翔栄株式会社を新規設立し、株式会社翔栄からの事業譲受完了に伴い、第2四半期連結会計期間において、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間で2億99百万円であります。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	精密部品事業	生活用品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,316	5,770	25,087	299	25,386
セグメント間の内部 売上高又は振替高	35	11	47	471	518
計	19,352	5,782	25,134	770	25,905
セグメント利益又は 損失(△)	1,647	△658	989	43	1,032

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	989
「その他」の区分の利益	43
セグメント間取引消去	25
全社費用(注)	△401
四半期連結損益計算書の営業利益	656

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「生活用品事業」において、事業環境の悪化に伴い収益性が低下し、当面業績回復が見込まれないことから、事業用資産につきまして、53百万円の減損損失を計上しております。

「生活用品事業」において、当社の連結子会社であるRHYTHM U. S. A., INC. を解散する方針を決定したことに伴い、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として29百万円計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更)

当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に評価するため、未実現利益については、各報告セグメントに商品原価として配分して開示する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメントの利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	963百万円	933百万円
のれんの償却額	50百万円	－百万円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年2月13日

リズム株式会社
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	二	口	嘉	保
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	長	井	裕	太

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているリズム株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年10月1日から2024年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は期中レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期決算短信開示会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。